

[別紙2]

審査の結果の要旨

学生番号 47009

氏名 佐伯みか

本論文は、判断の難しい治療・ケア方針を医療者と患者の双方が納得いくように決定する上で重要だと指摘されている「医師と看護師の共同意思決定」における役割期待関係の内的構造を明らかにするため、記述型分析モデルを考案・作成し、それをを用いることにより、治療・ケア方針決定過程の医師と看護師の役割期待関係におけるコンフリクトとそれが役割遂行に及ぼす影響について、以下の結果を得ている。

1. 本研究でとりあげた医師の5つの役割に関しては、医師の役割認知（重視度）より看護師からの役割期待（期待度）の方が高い傾向、看護師の5つの役割に関しては、看護師の役割認知（重視度）より医師からの役割期待（期待度）の方が低い傾向がみられた。すなわち、本研究でとりあげた、治療・ケア方針決定過程で患者の意向を把握・尊重する上で重要な医師の役割および看護師の役割について、全般的に医師は看護師ほど重視（あるいは期待）していないという「職種間コンフリクト（intergroup conflict）」があることが明らかにされた。
2. 医師と看護師の「職種間コンフリクト（intergroup conflict）」から「個人内コンフリクト（intrapersonal conflict）」に至る過程は、下記のように医師と看護師とでやや異なる傾向があることが明らかにされた。
  - (1) 医師においては、相手職種や自職種の役割認識（重視度・期待度）をいずれも過小評価（誤解）する傾向、同時に、相手職種の役割認識（重視度・期待度）と自職種の役割認識（重視度・期待度）とをほぼ同程度に見積もり、自分自身の役割認識（期待度・重視度）もそれらとほぼ同程度に認識する傾向が示された。このことより、医師よりも看護師の方が認識（重視度・期待度）が高いという「職種間コンフリクト」を知覚しない傾向があり、「個人内コンフリクト」が生じにくい傾向があることが明らかにされた。すなわち、医師は「職種間コンフリクト」を内面化しない傾向にあることが示された。
  - (2) 看護師も、医師同様、相手職種と自職種の役割認識（重視度・期待度）について過小評価（誤解）していたが、自職種の役割認識（重視度・期待度）より相手職種の役割認識（重視度・期待度）をより低く見積もる傾向がみられるという点で、医師と異なっていた。また自身の役割認識（重視度・期待度）が自職種の役割認識（重視度・期待度）より高い者の割合も、医師より多いことが示された。このことより、医師よりも看護師の方が認識（重視度・期待度）が高いという「職種間コンフリクト」を看護師は医師より知覚する傾向があり、「個人内コンフリクト」

も生じやすい傾向にあることが明らかにされた。すなわち、看護師は「職種間コンフリクト」を内面化する傾向にあることが示された。

3. 役割遂行(遂行度)の高低が相手職種との「個人内コンフリクト」に規定される傾向は、看護師にはみられるが、医師にはみられないことが明らかにされた。医師の役割遂行には、むしろ自分自身や自職種の役割認知に規定される傾向があることが明らかにされた。なお、従来、役割遂行(遂行度)との関連が指摘されてきた「自分の知識・技術に対する自信」「相手職種の知識・技術に関する信頼」「忙しさ」との強い関連は、医師においても看護師においても認められないことが明らかにされた。
4. これらをふまえ、本研究でとりあげた役割、すなわち治療・ケア方針決定過程において重要な看護師の役割の遂行度を上げるためには、看護師の役割に関する医師の役割期待(期待度)が上がるよう働きかけること、同時に、看護師集団の役割認知(重視度)に対する医師および看護師の過小評価(誤解)を解消することならびに医師集団の役割期待(期待度)に対する医師および看護師の過小評価(誤解)を解消することが有効だと考えられた。また、治療・ケア方針決定過程において重要な医師の役割の遂行度を上げるためには、医師の役割に関する医師自身の役割認知(重視度)が上がるよう働きかけること、ならびに医師集団の役割認知(重視度)に対する医師自身による過小評価(誤解)を解消することが有効だと考えられた。

本論文は、先行研究で、「役割期待関係における役割期待、役割認知、役割遂行の3者間で認められる不一致傾向」としか捉えられてこなかった役割コンフリクトを、相手の役割期待や役割認知をどのように知覚しているかという点も含めて検討でき、かつ2職種(集団)間の役割期待関係を解明するにあたっては、他職種と自職種の役割認知(役割期待・役割認知)だけでなく、自身の役割認知(役割期待・役割認知)をも含めた3者の関係で検討できる記述型分析モデルを考案した点で独創的である。

また、この記述型分析モデルを用いることにより、従来、明らかにされてこなかった治療・ケア方針決定過程の医師と看護師の役割期待関係における職種間コンフリクトの存在、職種間コンフリクトから個人内コンフリクトに至るまでの過程、また個人内コンフリクトが役割遂行に及ぼす影響について明らかにしたという点、またこれらをふまえた上で役割遂行度をあげるための対策を提示した点で臨床上的有用性も兼ね備えていると考えられる。

以上により、学位の授与に値するものと考えられる。